

ICT新事業創出推進会議（第11回）議事概要

1. 日時

平成26年7月14日（月）17時30分～19時00分

2. 場所

総務省7階省議室

3. 出席者

（1）構成員（敬称略）

三友座長、谷川構成員、岩浪構成員、岡田構成員（岡村代理）、島田構成員、篠原構成員（後藤代理）、関構成員、高橋構成員（宇佐見代理）、野村構成員、林構成員、浜田構成員（渡辺代理）、村井構成員、安本構成員

（以上13名）

（2）総務省

上川総務副大臣、武井総括審議官、鈴木官房総括審議官、吉田政策統括官、渡辺官房審議官、南官房審議官、小笠原情報通信政策課長、岡崎情報流通振興課長、田原技術政策課長

4. 議題

（1）ICT新事業創出推進会議報告書（案）について

（2）意見交換

（3）その他

5. 議事概要

①上川副大臣からご挨拶をいただいた。

②事務局より、第10回会合における指摘箇所を中心に報告書について報告した。そのあと、各構成員より一言ずつコメントをいただいた。主な発言は、以下のとおり。

【安本構成員】

- ICTを提供する者と利用する者は必ずしも同じ方向を向くとは限らないため、運用の仕方やお金の使い方など、しっかりやっていかなければならない。
- ツイッターなど、参加するユーザーを支援していくことがこれからは大事。支援の環境が整えば、良いクリエイターはどんどん育ってくると思うし、企業だけがやっついていく現状よりもはるかに良くなっていく。

【浜田構成員（渡辺代理）】

- 第1回目で、「スーパーハイビジョン8Kは幅広い技術を統合的に活用することで実現するものであり幅広い応用分野がある。東京五輪に向けて放送、ビジネス分野双方の展開を図りたい。」と発言したが、超臨場感映像PROJECTという形で盛り込んでもらえて有り難い。

【高橋構成員（宇佐見代理）】

- これまで、目的とやるべきこととその実現手段の報告書は存在していたが、そのプロセスを示す報告書は画期的。

【島田構成員】

- 何がチャンスなのかを考えたとき、ICTの科学技術の発展が情報に対して大きく影響して変わっていくということで、まだまだここが変わるので、そこがチャンスだということを取り上げてこのような取組ができたことは嬉しい。
- 何をやるかを考えたとき、社会課題解決に加え、豊かな暮らしにつながるような文化をつくっていけると良い。
- プロセスについて、イノベーションプロセスは大きな課題で、場をつくる話、小さく始める話、ユーザーと一緒に育っていくような話が今回できたことは嬉しい。
- 実際に産業化し事業化していくときには、新しいビジネスモデルをクリエーションしていくことを同時進行でやっていかなければいけないというのが課題。

【岡田構成員（岡村代理）】

- 新しい事業やビジネスを創出していくには異業種の方々との連携が必要であるが、何をするにしてもボトルネックがあつて、それはインフラであつたり、人材育成であつたり、いろいろなことがネックになる。そういうところは企業だけでは実現できないので、引き続き総務省にリーダーシップをお願いしたい。

【岩浪構成員】

- 今までには主に4つのデジタルアーキテクチャの端末（パソコン、スマートフォン、タブレット、テレビ）に対してしかソフトを書けなかったが、今後は眼鏡、車、医療機器など一般的な社会生活の隅々までプログラミングが可能になっていく。それらのルールや善悪を決めるのがユーザーという時代になってくると思うので、その趣旨をも

汲んだ報告書となっていてよい。

【篠原構成員（後藤代理）】

- 弊社も、様々なデータやコンテンツを提供する場をつくって、ユーザーの知恵をもらうような新事業推進のパートナーとしてやっていきたい。

【関構成員】

- 2020 年を見据えて、2016 年度までに実証プロジェクトを実施、2018 年に社会実装ということだが、2020 年には本格展開するという運びになるのではないか。
- 特に超臨場感映像 PROJECT、Wi-Fi タウン PROJECT、オープンデータ・オリンピック・パラリンピック PROJECT は、2020 年というデスティネーションがあるわけで、6 年といても短いので、早めにプロジェクトを立ち上げてしっかりとしたロードマップを作成して進めていく必要があるのではないか。

【野村構成員】

- 全 11 回の会合の中で 1 番感じたことは、つなぐことの大切さ。企業単体で新事業や新産業を創出しにくい環境の中で、技術とアイデアを結びつける、データを持つ人とそれを活用するアイデアを持つ人を結びつける、異業種と ICT 事業者を結びつける、大企業とベンチャーを結びつける、そういったつなぐためのアクションは大切。
- 人材の効果が出てくるのは非常に長期になるはずなので、人材育成は今すぐに取り組まなければならない重要な課題。

【林構成員】

- 曼荼羅の図は、いろいろな担当者がこの図を見るだけでも相当な示唆やひらめきを得られるもので、素晴らしい。

【村井構成員】

- 課題先進国ということだが、大事な地震のことが書かれていないので、追記すべき。
- 夢は実現されるのかという評価が大事。うまく行って本当に社会に広がっていったものと、ある時期だけものすごく貢献する実験成果が存在する。良いところを褒めるだけでなく、今後の教訓のために消えていった努力なども振り返ってきちんと評価したほうがよい。

- ICTというのは省庁の壁を越えて進めないといけないことだらけで、省庁間の連携をとって進めていくことを考えてほしい。

【谷川座長代理】

- 新産業・新サービスの創出の議論の根底には、国内で細くなりつつある中間所得層の仕事を回復させるか、そのためにサービス業を相当多様性を持って作り出していくことが必要で、省庁間を超えた取り組みが求められる。そういう中で特にプラットフォームのマッチングをしていく場は重要な機能。
- 例えば、建設機械の自動操縦のように、オペレータの判断と自動操縦を全体で考えるよいうな、人間系とシステムが一緒になって動かなければならない分野では、日本はひょっとしたらリードしていけるかもしれない。一方で、コンテンツと新しい情報事業の組み合わせは得意ではないかもしれない。我々の得意分野を今後マッチングを通じて自分たちで見い出していくことが大切ではないか。

【三友座長】

- 今後は、この会議の外との連携が非常に重要になってくる。
- 最初にやったところがやはり強いので、常にこの分野において最先端、世界で一番、最低限アジアで一番という状況が維持できるように努力していく必要がある。

以 上